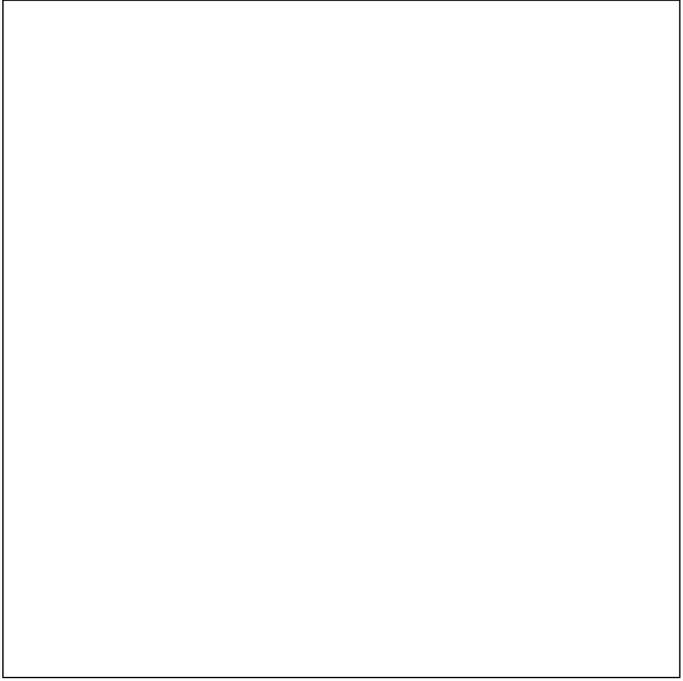


ノジハリス本の巻の毛



Tessa Welch ✎  
Wiehan de Jager ✎  
Masato Tanaka 📄  
3 ||  
日本語 🗨️ ja



**Global Storybooks**

[globalstorybooks.net](https://globalstorybooks.net)

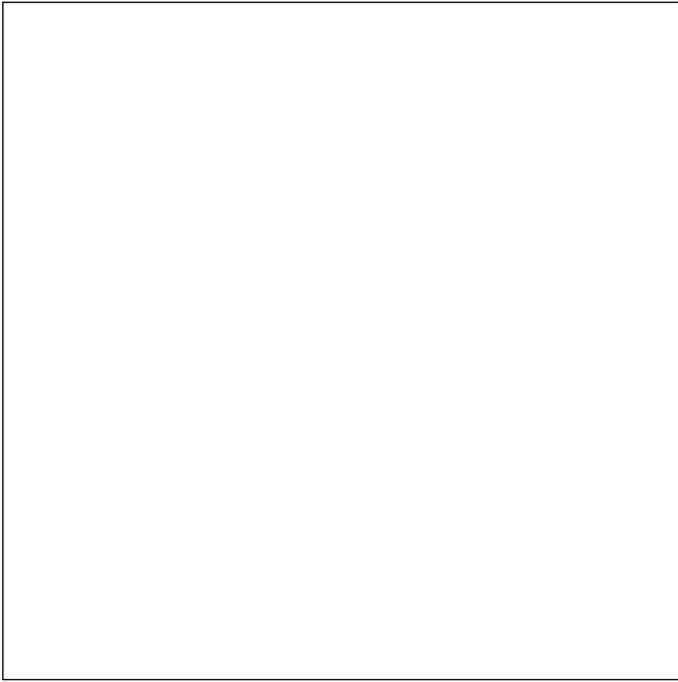
ノジハリス本の巻の毛

Tessa Welch ✎  
Wiehan de Jager ✎  
Masato Tanaka 📄



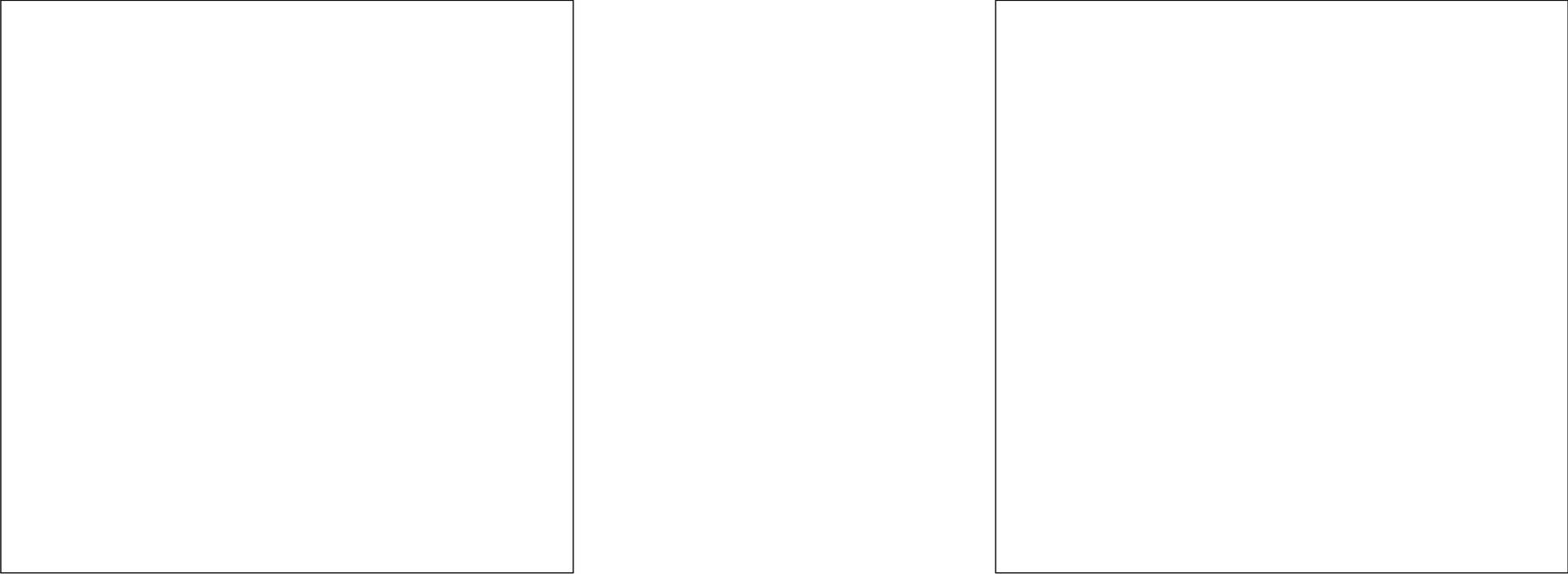
This work is licensed under a Creative Commons  
[Attribution 3.0 International License](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0).  
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>



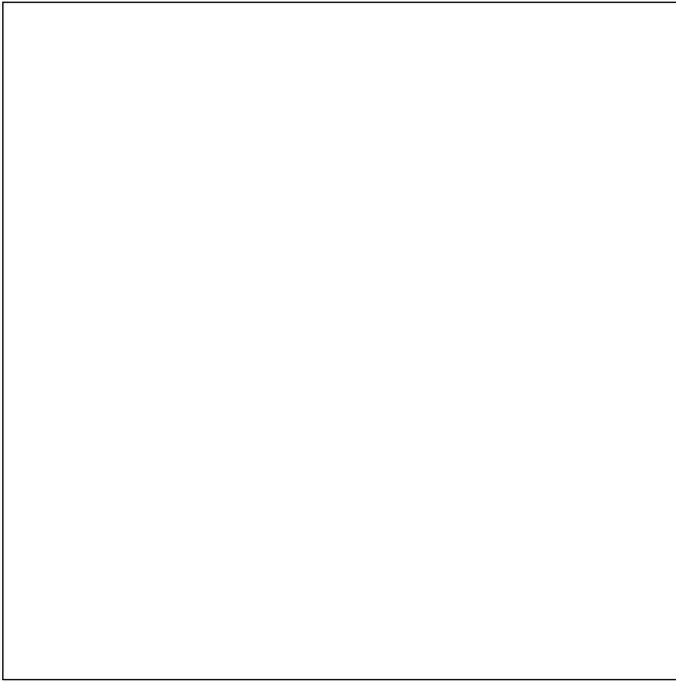


むかしむかし、三人の女の子が薪を集  
めに出かけました。

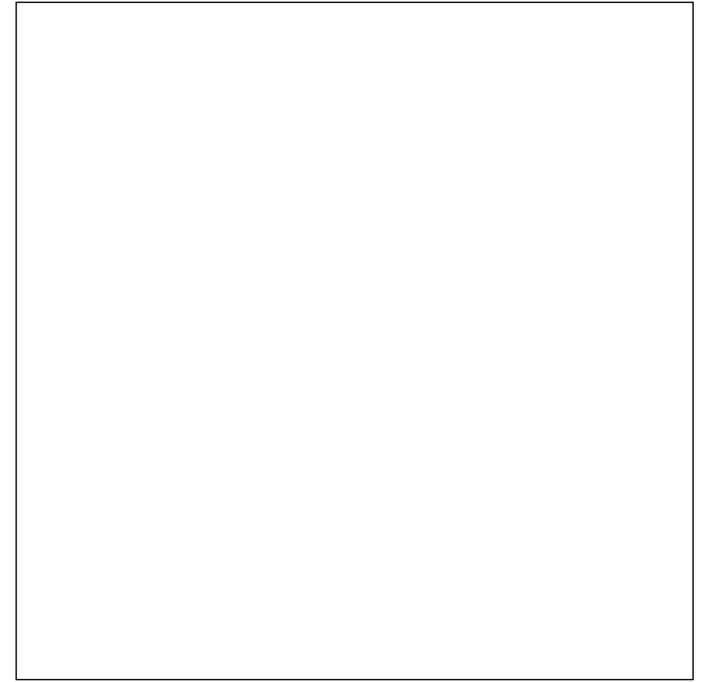
すると、犬はノジバが自分をだまし  
たことに気がつきました。犬は村に向  
かって走り続けましたが、村ではノジ  
バの兄弟が大きな棒を持って待つて  
いました。犬はふり返って走りさって  
いき、それ以来現れることはありません  
なりました。



その日はとても暑く、三人は川へ泳ぎ  
に行きました。三人は水遊びをしたり  
水の中を泳いだりしました。

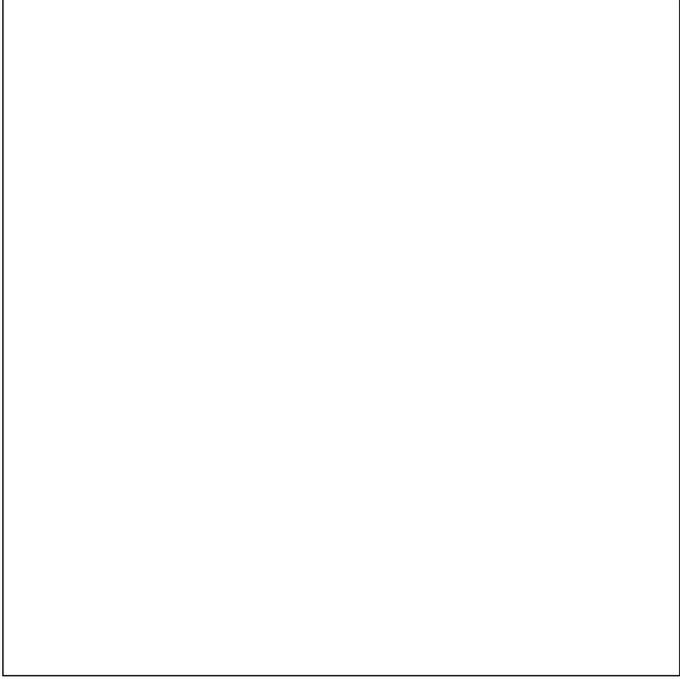


突然、三人はおそい時間になっていることに気がつき、急いで村に帰ろうとしました。

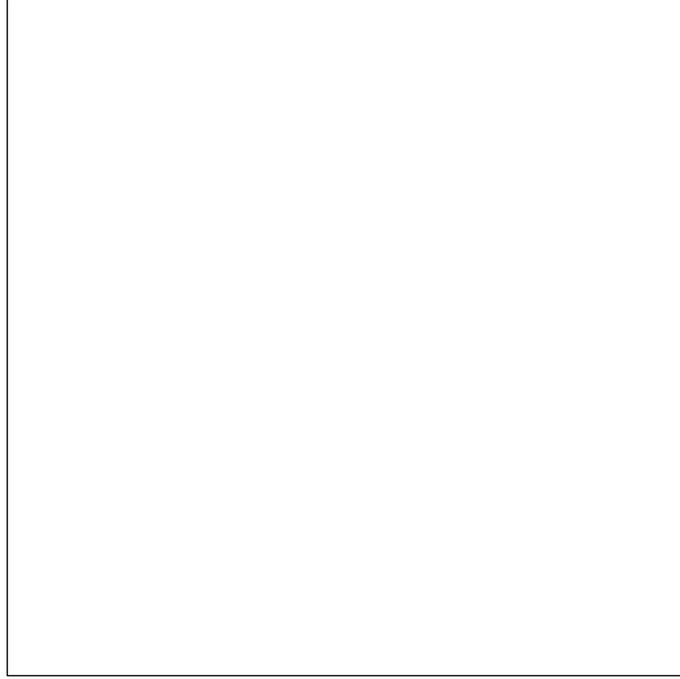


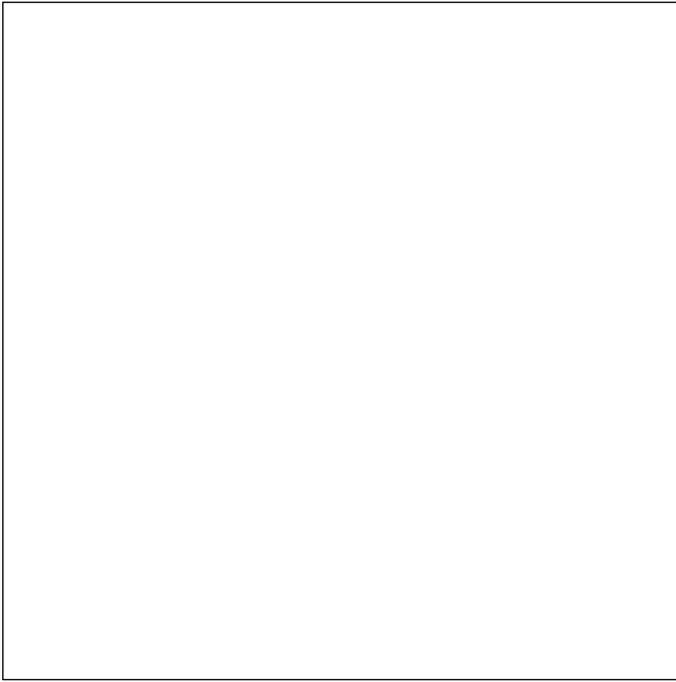
犬は家に戻るとノジベレを探しました。「ノジベレ、どこにいるんだい! 」と叫びました。すると、「ベッドの下にいるよ」と一本目のかみの毛が言いました。二本目が「扉の後ろにいるよ」と、三本目が「囲いの中にいるよ」と言いました。

村の近くまで来たところで、ノジバルが首元に手を当てました。ノジバルはネットクシスを忘れてきてしまったのです。「お願い、一緒に戻って！」と彼女は二人に頼みました。しかし二人はもう時間がおそすぎると言いました。

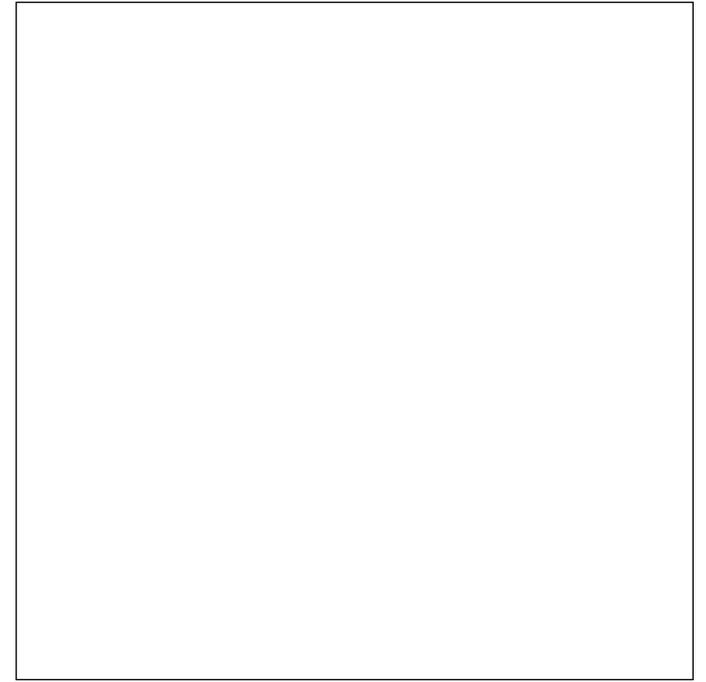


犬が出て行ってすぐに、彼女は自分のかみの毛を三本抜きました。一本をベッドの下に、一本を扉の後ろに、もう一本を囲いの中に置くと、できるだけ速く村へ向かって走りしました。



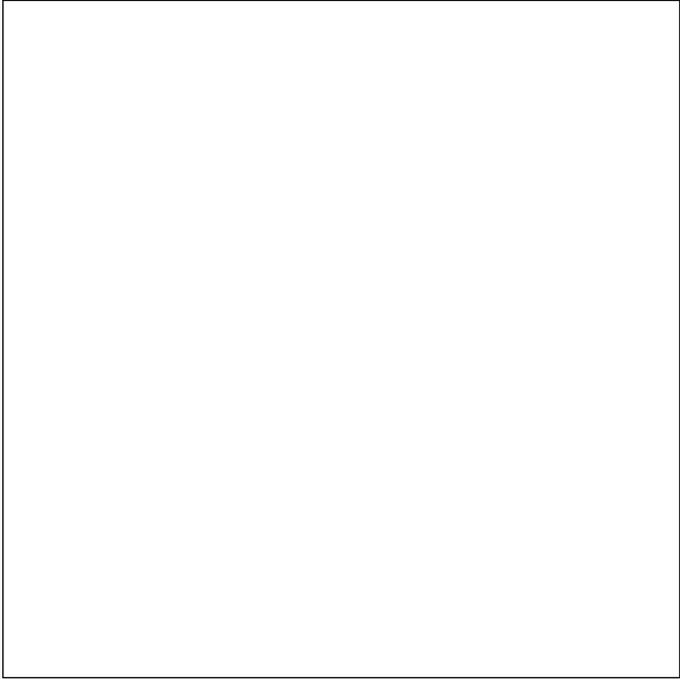


ノジベレは一人で川に戻ることにしました。ノジベレはネックレスを見つけると村に急ぎました。しかし、彼女は夜道で迷ってしまったのです。

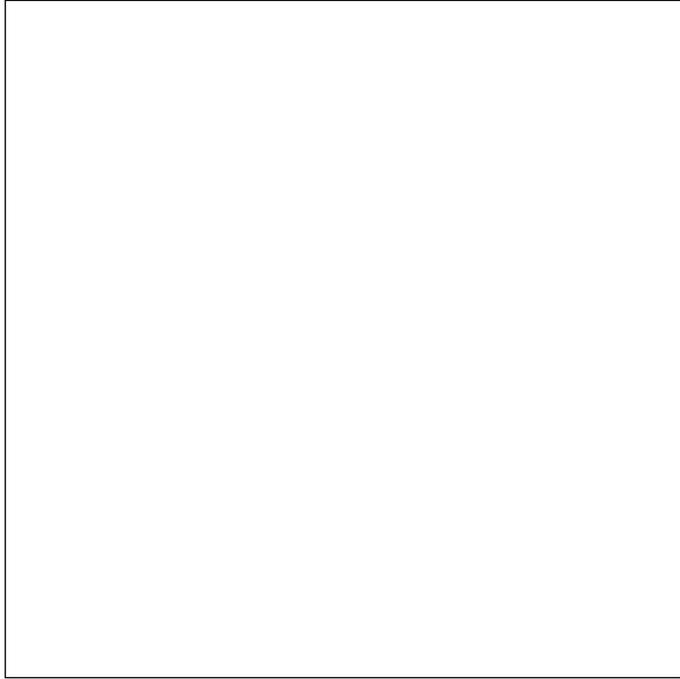


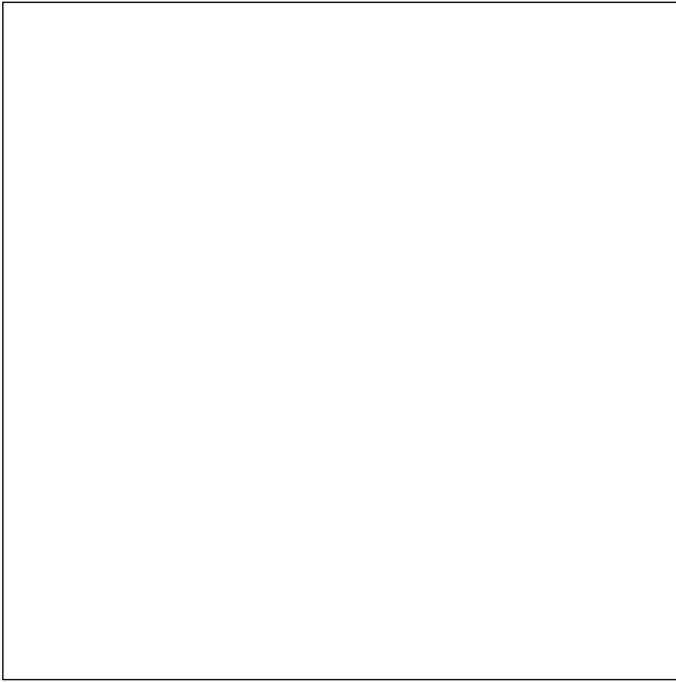
ノジベレは毎日犬のために料理やそうじ、せんたくをしました。ある日犬がこう言いました。「今日は友達のところに行かなきゃ行けないんだ。帰ってくる前にそうじやせんたくをして、何か作っておくんだよ。」

遠くに小屋の光が見えました。そこに急いで向かい、扉をたたきました。



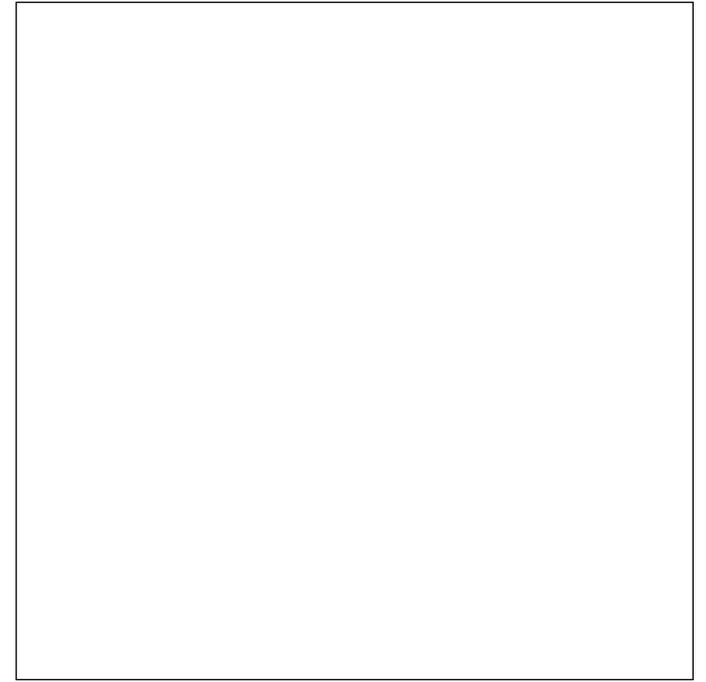
すると、「ベッドを用意しろ」と犬は言いました。ノジバが「犬のベッドを用意したことなんかないわ」と答えると、「用意しないとかみつくよ!」というので、彼女はベッドを用意しました。





驚いたことに、犬が扉を開けて、「何がほしいんだい? 」と言いました。

「迷ってしまったので寝る場所がほしいのです」と彼女が答えると、犬は「おいで、じゃないとかみつくよ」と言いました。



中に入ると、犬が「何か作ってくれ」と言いましたが、ノジベレは「犬にごはんを作ったことなんかないわよ」と言いました。すると犬は「作らないとかみつくよ! 」というので、ノジベレはごはんを作りました。